

# 2008年産総研中国センター一般公開 「移動地質標本館」出展報告

吉田 朋弘<sup>1)</sup>・酒井 彰<sup>1)</sup>・澤田 結基<sup>1)</sup>

## 1. はじめに

2008年10月24日(金)–25日(土)に開催された、産総研中国センター一般公開に「移動地質標本館」を出展しました。2日間で約1,600名(24日約600名, 25日約1,000名)の来館者で賑わいました。24日には、テレビでお馴染み「さかなクン」の講演がありました。私たちのブースはさかなクンが講演しているステージの近くでしたが、ブースをご覧になる方も多かったので、さかなクンを近くで見ることが出来ませんでした。し

かし、声はテレビで聞く甲高い声そのものでした。

既に本誌にて報告した、東北センターや九州センターの一般公開の体験型コーナーのメインは、「飛び出す火山」のペーパークラフト作りでした。今回は、会場が本館の室内ではなく、中国センター名物「瀬戸内海大型水理模型」がある建物内で、少々水がこぼれても大丈夫そうな場所(写真1)でしたので、ペーパークラフト作りとは違う水を使った体験ブースを企画しました。



1) 産総研 地質標本館

キーワード: 産業技術総合研究所, 中国センター, 一般公開, 地質標本館, 広島県呉市, 成果普及

## 2. 展示と解説コーナー

### 【中国地方の土台 花崗岩】

花崗岩といっても山陰と山陽ではその性質が異なり、A0ポスター1枚にまとめました。磁鉄鉱を含む山陰の花崗岩は磁石にくっきます。出雲のたたら製鉄の原料です。花崗岩のチップと強力な磁石を使って実験・解説をしました。

### 【日本の地質百選「久井の岩海」】

広島県三原市にある「久井の岩海」は、花崗岩の大岩が流れたように堆積した地形で、日本の地質百選選定委員会が選定した地質百選の一つです。地形のなりたちをA0ポスター1枚にまとめ、展示・解説しました。

### 【標本展示「青柳鉱物標本の世界」】

青柳鉱物標本は、2008年に故青柳隆二博士のご遺族から寄贈された739点の鉱物標本です。2008年3月19日～6月29日には、地質標本館特別展「青柳鉱物標本の世界」を開催しましたが、その標本の一部を展示しました。

また、「触れる標本」として標本館所蔵の巨大水晶やアンモナイト等を展示しました。

## 3. 体験コーナー

### 【黄鉄鉱の結晶を見つけよう!】

この体験は、過去に地質標本館で「黄鉄鉱ひろい」として開催経験があります。今回は、2008年9月19日～21日に開催した「地質情報展2008 あきた-発見・体験! 地球からのおくりもの-」で、来場者にお土産として準備した黄鉄鉱を含むセリサイト(粟代鉱山産:愛知県北設楽郡)の残りを利用しました。

適量のセリサイトを茶こしに入れ、水の入ったモロブタで洗うと顕微鏡で見ないと分からないような小さな黄鉄鉱がたくさん採れます。

「茶こしにセリサイトを入れたり、洗い方の指導をしたり、出てきた黄鉄鉱を袋に詰めたり」と、作業が多く一人で対応するのは大変でしたが、子どもたちだけでなく大人も楽しんでくれていたようなので良かったです。「セリサイトは化粧品のような原料として使われるんですよ」とお母さんに話しかけると、「あら、じゃあ顔にもたくさんぬらなくちゃね。」と言われ「そうですね。」とも「そんな必要はないぐらい綺麗なお肌ですよ。」とも言えず、経験不足を痛感しました。

### 【砂で遊ぼう! 砂で学ぼう!! 「砂変幻・エキジヨッカー」】

遊び方を教えて自由に遊んでもらうコーナーです。外部イベントでほぼ毎回実施しています。

## 4. 最後に

原稿執筆の時点では、中国センターの移転に伴い、「瀬戸内海大型水理模型」の公開が最後とのことで、一般公開終了後にも、「少しの時間でいいので見せて下さい。」と来場された方が数人いました。この原稿が掲載される頃は終了しているかもしれませんが、2009年6月27日(土)に一般公開が開催されます。

毎年「移動地質標本館」の出展依頼をいただく中国センターですが、移転先での一般公開の際にも「移動地質標本館」にぜひ声を掛けて下さい。

YOSHIDA Tomohiro, SAKAI Akira and SAWADA Yuki (2009): Exhibition in AIST Chugoku Open Day 2008.

<受付:2009年1月20日>